

## 神戸市会 会議録

2008.03.24 : 平成 20 年総務財政委員会 本文

(一部抜粋)

63 : ○委員 (北山順一)

○委員 (北山順一) 1 点お伺いを申し上げておきたいと思いますが、今月 5 日に明石沖海峡で船舶事故がありました。先日来見ておりましたら、ご存じのとおり有名なあたごというイージス艦の事故で漁師が 2 人行方不明になっておると、こういうふうなこともありますし、その後日本海の方で海上保安庁の船と漁船の衝突事故があったと。あるいは、そういうふうなことがあって、そういう事故というものがあれば、必ず犠牲者が出てきておりますし、今回の明石沖海峡での船舶事故においても、やっぱりそういうふうな犠牲者が出ておるようです。そういう犠牲者を救出するというのも大変大事ですけれども、それによって第 2 次被害と言われるような被害が神戸市のノリ養殖業者というんですかね、あるいは今一番シーズン真っ最中であるイカナゴ業者、この漁業者にとっては生命線とも言われるぐらい厳しい事故に、今、直面しておる、被害に直面しておると、こういうふうな状況であります。

私たちは、神戸市民であるこういう人たちが、大変ひどい被害をこうむっておるこのときに、市や県や国はどうしてくれるんだろうというふうに見ておりました。国も動いていただいておりますし、兵庫県知事も、神戸市長もそれなりの努力を一生懸命してもらっておるということ、先日の 21 日だったですかね、そのときに記者会見で知事も市長もそれなりのことを精いっぱいやったださっておると、こういうふうにしておるんですけれども、実態を神戸市も県も十分把握していらっしゃると思うんですけれども、漁業に従事しておる人たち、これもう皆さんご存じのとおり、後継者不足というような状況の中で、それでもおやじがやっておる仕事を継いで、あと自分たちもやっていこうというような思いを持っておる人たちがいっぱいおるんですけれども、こういう船舶事故が起こる度に、被害はもろにかぶってくる。そのもろにかぶってきた被害を一生懸命に働いて返し続けてきたところに、またこういう事故が起こる。こういうことの繰り返しで、あの人たちにとっては夢も希望もなくなってしまったと。この際、もう漁業という産業から足を洗おうかなというような状況が今出てきつつあるんです。

先日 21 日に知事も、市長もほんとにやってくれたらいいのと思うことを精いっぱいのことをやったださっておると、こういうふうには私は理解をいたしますけれども、この言っておることを一日も早くやってもらいたい。そして、また力強く、これは前進をしていただいて、漁民の皆さんに心配はかけませんよと、漁民の皆さん頑張ってくださいよと、後継者の皆さんも頑張ってくださいよと言えるような状況をつくりあげていただきたいということを、これは 1 つ、どうしても要望を強くしておきたいと、こう思っております。

そこで、1 つだけ聞いておきたいんですけれども、例えばこういう被害が起こったときに、あるいは事故が起こったときに、そのときは普通陸上であればいろんな保険がありますけれども、その保険で賄えないような部分が必要出てくると思います。そういうときに一定の基金をやっぱり創設をしていただくと、こういうふうにして働いておる人たちは、こういうセーフティーネットがありますよと、心配せんと頑張

ってくださいと言えるような、基金制度というようなものをこしらえてやっていただけたらどうかと、こういうふうには私は考えております。そのためにはどういいますか、学者とか県や、市や、関係者、そして漁民の皆さん集まって、今後どうすればいいのかというようなことについての会議を立ち上げていただいたらどうかと。そうして、安心して働いてもらえる環境をつくり上げる、こういうことについてはどう考えていらっしゃるのか、お伺いしておきたいと思っております。

#### 64：○小柴行財政局長

○小柴行財政局長 今回の事故は本当に何かあってはならないような事故だったわけですが、やはり後、今後どないしていくかということについては、委員の今おっしゃったとおり、記者会見でもできることはやっていこうというようなことで、税も含めまして固定資産税の問題、あるいは市県民税の減免の問題も含めまして、前向きに取り組んでいこうということではしております。それで、委員ご指摘の、例えば基金とかいう話がありましたですけれども、今現在でもやはり共済保険の掛金、掛けておりますけれども、それに対して神戸市の方で助成している分がございますので、その分を例えば充てるとか、そういうようなことを含めて、いろいろ検討がなされておるんじゃないかと思っております。これは関係者集まってということで、今話がありましたですけれども、どこが中心になってやるのかということもあると思っておりますけれども、産業振興局になるのか、それ以外の局になるのか、そこら辺については今後検討する必要はあると思っておりますけれども、やっぱり中心となる部局がそういうような関係者集まって、いろいろな声を聞くことによって、今後どういう対策を講じていくかというのは、非常に大事なことであると思っておりますけれども、所管がどこになるかということについては、今後またいろいろ検討もする必要もあるなと思っておりますけれども、今現在の今回の起きた事故につきましては、最大限いろんな面で支援していこうということについては、関係者が総力を挙げてやってるという状況でございます。

以上です。

#### 65：○委員（北山順一）

○委員（北山順一） 今、局長のご答弁にありましたように、関係機関は精いっぱいやったださっておるということについて、私からもこれは感謝申し上げたいと思っておりますが、できるだけ早く実を上げていただきたい。このことについては強く要望しておきたいと思っておりますし、いわゆる漁業という1つの産業でございますから、産振局あたりが中心にならなきゃならんと思っておりますし、あるいは油の被害というようなことになれば、これ環境局も相当頑張ってもらわないかんなど、こういうふうには思っています。

また、皆さんご存じかどうかしりませんが、長田の漁業協同組合の皆さんは年に何回か、海から上がった鮮魚、それと子供が触れ合う場を何回かつくってます。そして、小学生・中学生が集まって、一緒に触れ合って、これはどうしたらええんだ、あれはどういう状態なんだというようなことをやっておりますから、これ教育委員会も関係してもらわないかんなど、こういうふうにも思っておるんです。財政の当局としては——それはあれ償却資産だそうですが——あの償却資産税についても、こういう被害がこういうふうに出たときにはこうしようというぐらいの強い意思表示をしていただきたい。

そういうことから、先ほど共済基金というような問題があるんだと言っておりますけれども、これを大

幅に引き上げていくと、そして安心してこの漁業という事業についてくださいよといわれるメッセージを発信をしていただけるように、これはもう強く要望をしておきたいと思います。

以上です。

**82：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） この実施マニュアルについて読ませていただいたんですけども、この実施マニュアル爆破テロ対策編というのを見ておまして、6ページに機関の名称、あるいは指定公共機関等とこう書いてあるんです。いろんなところとの連携を密にしながらやっていくと、こういうことですが、この中に漁業組合というのが入ってないんですがね。やっぱり海上でのいろんなテロも想定されておるわけですから、漁業組合にもこれは参加してもらう必要があると私は思うんですが、参加してもらう必要ないという見解なんですか。お伺いします。

**83：○平井危機管理監・理事**

○平井危機管理監・理事 6ページの指定公共機関等と書いてありますけれども、指定公共機関というのは、法律できっちり決まっておりますが、基本的には私も今ここに挙げておりますのは、いわゆる国民保護の協議会のメンバーを中心に書いておまして、確かに先生おっしゃるように、任意で決めれることではないわけですが、今後とも少しちょっと検討課題にさせていただきたいなというふうに思っています。

**84：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） それは検討していただく必要があると思うんです。いろんな海難事故等がありますとき、漁業をやっている大量の漁船が出て行って、網を引いて、いろんな証拠物とか、いろんなものを引っ張り上げる、あるいはそういう犠牲になった人を捜し回ってもらう。そういうときに漁船というのは非常に——漁業組合ですか、非常に力を発揮してもらえらる団体でございますので、ここに書いてあるように指定されていないんだということであれば、指定するようにした方がいいと思います。例えば、バス会社やとか、フェリーやとかいろんなところへ声かけるんですから、こういうところもやっぱり声かけるべきだと、私は思いますので、そういう方向で努力をしていただきたい。向こうは努力させて要らん言うかもわかりませんが、ただ参加して努力してくださいよというぐらい呼びかけるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

**85：○平井危機管理監・理事**

○平井危機管理監・理事 定足数はございますので、その辺の絡み等もありまして。確かに先生おっしゃるように、港の関係、神戸はやっぱり港の関係者というのは非常に多うございまして、少しその辺はトータルとして、今、内海航路海運業者とか、そういったところしか、指定公共機関として出てませんけども、今後の検討課題として港全体として少し考えてみたい、検討してみたいなというふうに思っております。

以上でございます。

**93：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） それでは、まず1点お伺いを申し上げますのは、これ事故が起きたのは3月5日なんです。3月5日に事故が起きて、そのうちの1隻は沈没をしたということも確認されておるわけです。沈没した船から油が随分出ておるのではないかと、ということも言われておるわけなんです。その際に、今でも漁業組合の皆さん方は、あの沈没した船がある限り安心して操業できないという立場なんです。その沈没した船があるのに、3月13日まで自衛隊に、あの沈没した船の調査をしてほしいと、あるいはこの沈没した船をいつ引き揚げるとかというようなことを話し合いができていないようですが、そこらのところ、何で3月5日が3月13日までこんなに時間がかかるんだと。直ちに対応すべきだったんじゃないのかと。

例えば神戸市消防局の消防艇あたりが沈船を調査する能力があったなら、僕は言いませんよ。恐らくないと思いますんで、自衛隊が出動したんだと思いますが、こんなときは事故が起こった翌日にでも自衛隊出動を依頼すべきじゃなかったのかということを考えると、僕は対応が大変遅かったのではないかなと思ってますが、いや、そうじゃないんだということだろうと思いますから、どうぞそういうことについても、市民の皆さんに安心していただくためにもそれは言うべきだと思います。

それから、先ほど平野議員からも漁業者の生活はどうなるんだという質問がございましたけれども、私どもは漁業者の生活も大事です。けれども、漁業者の生活の中の後継者の部分なんです。おやじと一緒に船に乗っておる人たち、ようけおるんです。そして、これからおやじの跡継いで船に乗ろうとする若者もおるんです。もうおやじのやっとう仕事やめやと言うとる人よりも、やるんだと言うとる人の方が多い。この人たちがやる気をなくしてしまうようなことのないようにしなければならん。これを考えたら、こういうふうな事故が起きたら直ちにあらゆる手を打つべきだと私は思うんです。この2点について、危機管理監としての立場でご回答いただきたいと思います。

**94：○平井危機管理監・理事**

○平井危機管理監・理事 3月5日の午後2時50分で、私どもが3時30分過ぎに私とこに報告が入りました。当日から、瞬間的に——私個人の話申し上げますと——沈没したと、間違いなく油が流れてるだろうということで、直ちに産振局に対して、今、イカナゴの漁がありますので、イカナゴの漁があるので大変なことになるでという話をしまして、産振局は直ちに動いていただきました。漁業関係者の方に連絡とっていただいて、事故の対応をしていただいたというふうに思っています。そういう意味では、非常にすばらしいスピードで産振局は対応していただいたというふうに思っております。

それから自衛隊の件でございますけれども、自衛隊の要請は第5管区海上保安本部長と神戸海上保安部長と、それと県知事しかできませんけども、我々は沈没した場所が83メートル、そして潮流が6ノットということも聞かされておりましたので、次の日ぐらいから直ちに沈没船の引き揚げができないかどうか、それについて具体的に海上保安部、そして兵庫県と入れて話し合いをしました。そういうことで、非常に少し県知事と5管本部長との要請が13日の朝8時30分というようにおくれたわけでございますけれども、それまでは日本の国内で、どの部隊がああ船の調査をできるのかということ水面下で海上保安部も、そ

して自衛隊の方もいろいろ研究させていただいて、やっと出てきたものがこの段階でございます。そういうことで、決してじっとしていたんではなくて、水面上では県も、私どもも、そして5管もそれぞれが持っている船で何ができるかということの研究したつもりでございます。もう少し早ければよかったのかなというふうには個人的には思っております。

以上でございます。

**95：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） いや、後継者の問題もあるから、そういうことについてもコメントしてほしいと思っておりますよ。それと、自衛隊の持つておるどこの部隊のどの船がというようなことを検討しておったなんと言われたら、この国民保護計画か、これが泣くで。だからね、どの部隊がどんな能力を持つておるかぐらひは、全部調べておって、直ちにここに言ってほしいと、神戸市としてはこうしてほしいということをやらずに言うていける体制ができておらなかったらいかんと思うんですが、その点いかがですか。

**96：○平井危機管理監・理事**

○平井危機管理監・理事 私どもも、私どもなりのルートがありますので、自衛隊に対して、こういう難しい場所なので、こういう部隊で、自衛隊でないとはっきり言ひまして、海上保安部の船ではなくて、自衛隊でないだめではないかなということ、私の方から強くはっきりと申し上げたところでございます。

それから後継者難の話ですけれども、私どもも漁業者の皆さんとお話し合ひもしましたけれども、確かに一番大きなところは、沈んでる船がやっぱりずっとそこにあると心配やと、いつ油が漏れてくるかわからへんと。そういったことも心配ですし、そしてそういうことでせつかく自分の息子を育てようと思う人がやる気をなくしたらあかんということも聞いております。そういう意味で、とにかく経済的な支援も含めて、あらゆるところで、今、神戸市として全局を挙げて漁業者に対して何らかの形で、いろんな意味で支援を行つていこうということでございます。これは危機管理室が今ちょっとまとめておりますので、産振局を中心として私ども、そして建設局、あらゆる部局ですね、行財局も含めてですけれども、皆さんの知恵を絞つて、漁業者の生活、支援をしていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

**97：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） これで終わりますけれども、沈没しておる船の場所も型も大きさも全部わかつとるわけですから、これは、今、漁民とかいろんな人たちに安心をしていただくのは、一番早いのはその船は何月何日に引き揚げにかかりますよと、自衛隊がこう言つてますよと、あるいは言つてなかつたら自衛隊にいつ引き揚げしてくれるんだと、引き揚げざるを得ないでしょ、いつかは。それやったら一日も早く引き揚げてくださいということを言うべきですし、その引き揚げる日にちも発表できるんだつたら、さっさとしてやっていただけるように努力してほしいと思うんですが、その点お願いをしたいと思うんですが、コメントできたらひとつお願いします。

**98：○平井危機管理監・理事**

○平井危機管理監・理事 自衛隊の方からは、83メートル潜った写真を我々も見せていただきました。ということで、カメラで見る限りは油の漏れというのは確認できなかったというふうに報告はされてますけども、現実的には1分間にちょびつとずつですけども、海面に油が上がってくるという状態がその後も続いておりました。ということで、引き続き、調査だけで本当にいいののかも含めて、県、5管、自衛隊と私ども、私どもが窓口ですので、窓口になっていろんな要望・要請をこれからも行っていきたいなというふうに思っております。

**99：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） 満足はしていませんけれども、当局の答弁、あの程度が限界かなとこういうふうにあります。けれども、要望は一日も早く引き揚げて下さいということでございます。どうぞよろしくお願いします。

**137：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） 私どももこの陳情についての心といたしますか、そのこういう行動をすることについての理解は、一定の理解は私はできると思っております。今、国の方もご存じのとおり、北朝鮮に対して経済制裁を実施しておりますところでございますから、地方自治体の一部として、また北朝鮮の被害者、直接の被害者は私たちの神戸にいるんだということも考えたら、こういうことについて理解はいたしますけれども、神戸市の先ほどのご説明にありましたように、やっぱりきっちりと調査をした上で課税すべきものは課税する、せんでいいものはしないということを決めておるんだという説明を了として、審査を打ち切りたい。

以上です。

**138：○委員長（大井としひろ）**

○委員長（大井としひろ） 各党派のご意見は不採択と審査打切の2つに分かれておりますが、本日結論を出すことについては意見が一致しておりますので、これよりお諮りいたします。

まず、本陳情について、採否を決するかどうかについて、お諮りいたします。

本陳情の採否を決することに賛成の方、念のため申し上げますと、採択または不採択を主張される方は挙手願います。

（賛成者挙手）

**139：○委員長（大井としひろ）**

○委員長（大井としひろ） 挙手少数であります。よって、本件は採否を決しないことに決定いたしました。したがって、審査打切となりました。

以上で意見決定を終わります。